

福岡市の沿川樹木の景観特性とその評価

九州産業大学工学部 正会員○山下 三平
 九州産業大学大学院 学生員 下澤 隆一
 九州産業大学工学部 非会員 富 一聖
 九州産業大学工学部 非会員 田村 健
 九州産業大学工学部 非会員 鎌田 聡

1. はじめに

沿川の樹木は河川景観の魅力を高める重要な要素である¹⁾。わが国の自然流域の区間の場合、連続した自生の河畔林がわずかながらも残されており、貴重な景観要素となっている。また、水防林として植林された区間でも長年月を経たものは、自然林を思わせる印象を与える。

しかし都市河川の場合は、土地利用の高度化と急変、これらに対応した緑地整備の要請により、この2種とは異なる形態の樹木が川沿いを飾ることになる。

本稿では、福岡市を流れる2つの都市河川を例にとり、沿川樹木の実態を調査して、その景観的特性を探り、都市河川における沿川樹木の景観的価値を考察する。

2. 調査と分析の概要

対象とした河川は福岡市を流れる御笠川と室見川であり、河口からそれぞれ18.4 kmと12.5 kmの平地河

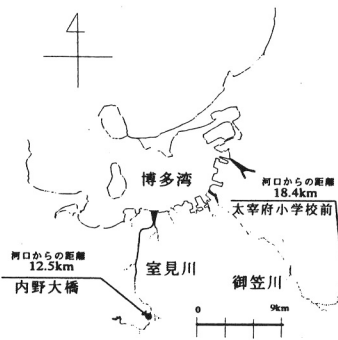


図-1 調査河川とその範囲(御笠川:河口から18.4 kmまで。室見川:河口から12.5 kmまで)

川区間を選んだ(図-1)。これらの区間の河川区域、および隣接する公共空間と私有地に存在する樹木に関して、その位置、樹種、および本数を現地調査した。調査期間は2001年8月24日～11月8日であった。

本稿では、得られた沿川の樹木データを、分布の形態と位置の明瞭な違いに基づいて、①独立した高木、②河川区域の群生樹木、および③河川区域外(堤内)の群生樹木、の3つに分類する(図-2)。この分布と密度をもとに両河川景観の評価を行なう。

3. 沿川樹木の分布

(a) 平均の高木数と群生延長

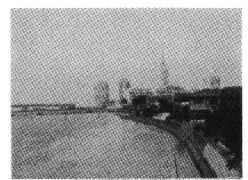
室見川の沿川の高木の数を、河口から最上流調査地



(a) 独立高木(室見川, 河口から約2.1 km)



(b) 河川区域の樹木の群生(御笠川, 河口から約1.2 km)



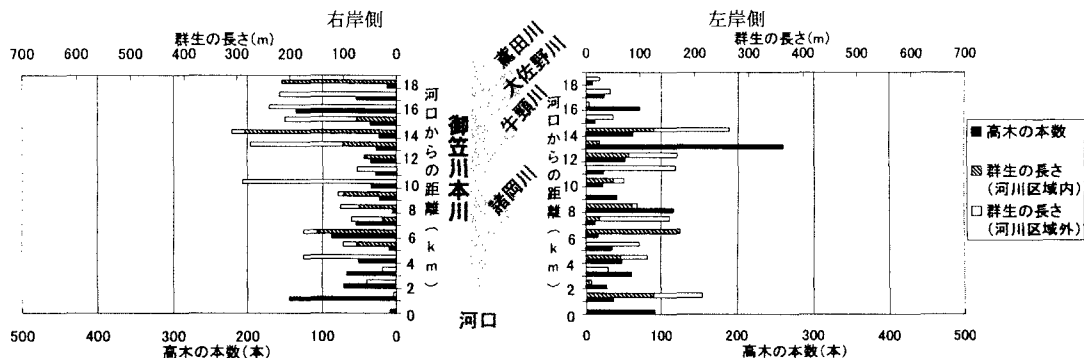
(c) 河川区域外の樹木の群生(室見川, 河口から約1.5 km)

図-2 沿川樹木の3形態の例

表-1 独立高木の数と群生樹木の延長

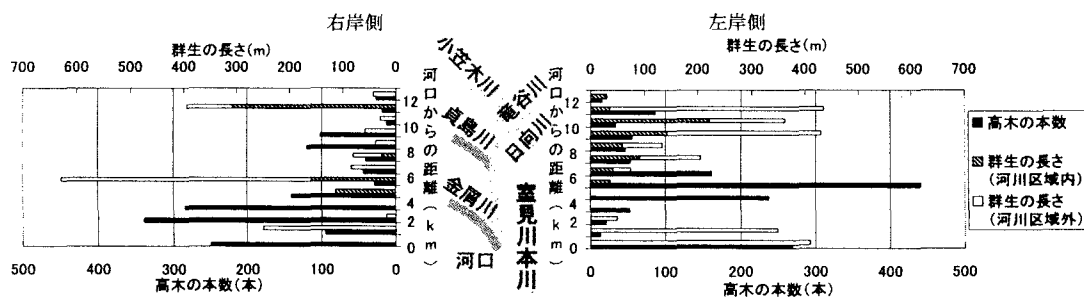
	距離	独立高木の本数*		群生樹木の延長			
		1kmあたり	総数	河川区域内		河川区域外	
				1kmあたり	総延長	1kmあたり	総延長
御笠川	18.4km	右岸	49本	62.8m	1155.0m	85.6m	1575.0m
		左岸	55	1017	41.3	760.0	52.4
室見川	12.5km	右岸	120	48.2	602.5	90.4	1130.0
		左岸	120	1487	53.4	662.5	149.8

*河川に隣接する公共空間(公園、学校、墓地)の樹木を含む



ただし、最上流区間は右岸、左岸ともに0.4km.

(a) 御笠川



ただし、最上流区間は右岸は0.5km, 左岸は0.4km.

(b) 室見川

図-3 独立高木と群生樹木の分布 (1 km毎の本数または延長)

点までの距離で平均すると、御笠川の2倍以上に達する(表-1)。両河川ともホルトノキ、クロガネモチ、ソメイヨシノ等を植栽された箇所を数多くもつが、室見川の方が河畔の公園整備が進んでいる。また室見川では、新しく自生したヤナギや古くから残されているクスやエノキがより多く観察される。

樹木の群生が河川区域に存在すると、明るい水面と緑陰の対照が河川景観を引き立てる¹⁾。御笠川と室見川の河川区域にある群生区間の長さは、ともに流路方向の距離1kmあたり平均約40~60m程度と短く、両河川に大きな差異は見られない(表-1)。しかし、河川に隣接する土地や建物周辺に見られる樹木の群生の密度は、室見川の方が高く、その植栽の目的に関わらず、水辺と堤内を穏やかに結びつける効果もっている。

(b) 樹木分布

河口から1km毎に独立高木の数と樹木群生の延長を示すと図-3のようになる。御笠川の左岸を除けば、河口から4~5kmまでの区間では独立した高木が多く、河川区域に群生樹木が見られない。しかしこの区間より上流では、逆に高木数が減少し群生樹木が増加する

傾向が見られる。

このような室見川河岸を河口から上流へ向かって散策すれば、河川景観の緩やかな変化と秩序を経験することができる。一方、御笠川左岸は樹木の分布が明瞭な傾向性をもたない。また、広く自由なオープンスペースをもたないため、川を鑑賞する体験は沿川方向への大きな移動を伴わず、拠点重視の傾向を示すことになる。そのことは、河川鑑賞にふさわしい継起的な体験を支えるための環境整備を、さらに困難にするものと思われる。

4. おわりに

本稿では沿川樹木を分布の形態と位置に基づいて分類し、福岡市を流れる都市河川の景観評価を試みた。調査ではより詳細な樹木の位置と種類のデータを収集している。そのデータと対象河川の任意の区間における空間計画とを結びつけることが、今後の課題である。

参考文献

1) Litton, Jr., R.B. et al. *Water and Landscape*. Water Information Center, Inc. 1974.